

## 創生デザイン学科

---

|         |         |           |       |
|---------|---------|-----------|-------|
| 教 授     | 竹 島 正 博 | ・ ・ ・ ・ ・ | 1 0 1 |
| ”       | 鳥居塚 崇   | ・ ・ ・ ・ ・ | 1 0 1 |
| ”       | 二 井 進   | ・ ・ ・ ・ ・ | 1 0 2 |
| ”       | 三 井 和 男 | ・ ・ ・ ・ ・ | 1 0 2 |
| ”       | 森 宮 祐 次 | ・ ・ ・ ・ ・ | 1 0 3 |
| 准 教 授   | 内 田 康 之 | ・ ・ ・ ・ ・ | 1 0 3 |
| ”       | 田 中 遵   | ・ ・ ・ ・ ・ | 1 0 4 |
| ”       | 中 澤 公 伯 | ・ ・ ・ ・ ・ | 1 0 4 |
| ”       | 西 恭 一   | ・ ・ ・ ・ ・ | 1 0 5 |
| 専 任 講 師 | 遠 田 敦   | ・ ・ ・ ・ ・ | 1 0 5 |
| 助 教     | 木 下 哲 人 | ・ ・ ・ ・ ・ | 1 0 6 |
| ”       | 中 川 一 人 | ・ ・ ・ ・ ・ | 1 0 6 |



| 資格   | 教授  | 氏名 | 竹島正博 |
|--|---|----|------|
| <p>携帯電話や家電製品、コンピュータなどが出現したことにより私達の生活は非常に便利になり、これまでは実現できなかったような高度な機能を利用できるようになっています。しかしながら高度な機能をもつ反面インターフェースが非常に複雑で、人間がそのインターフェースを簡単に使いこなせなくなってきました。従来の家電製品は、それほど多くの機能を有する機器ではなかったため、製品の開発においてはインターフェースの使いやすさよりも、どちらかと言えば高・多機能性に重点が置かれていました。しかしながら近年の家電製品の進化はめざましく、家電製品のインターフェースは急速なスピードで複雑になってきます。今後の情報のデジタル化にともない、家電製品と使用者の橋渡しとなるインターフェースの充実がこれまで以上に重要となってきます。研究テーマは、家電製品のインターフェースであるリモコンを使いやすくすることを目的としています。次世代の家電リモコンにおいては、住宅の内外を問わず様々な場所から家電製品を操作することも必要になってきます。外出先から住宅内をコントロールすることができれば、現在、社会の重要課題となっている高齢者問題や福祉問題、教育問題を解決するひとつの足がかりになると考えています。</p> |   |    |      |
| 1) 内田康之, 和田英訓, 田中春輝, 竹島正博, 移動ロボットのための手信号を用いた操縦指令方式に関する研究, 日本設計工学会, 第52巻, 3号, pp161~171, 2017年3月  |   |    |      |
| 2)   |   |    |      |
| 3)   |   |    |      |
| キーワード  | ヒューマンインタフェース    マンマシンシステム    設計工学    感性工学 |    |      |

| 資格  | 教授   | 氏名 | 鳥居塚 崇 |
|---|--|----|-------|
| <p>人間工学, 感性工学, 心理学, 人間中心性設計等の考え方を活かしながら, 人間の特性に基づいたデザインの指針開発, UXデザイン, 製品安全, リスクマネジメント等を中心とした研究を行っている。デザイン指針については「わかりやすさ」を中心とした直感型デザイン, 「使って楽しい」「もっと使いたくなる」を中心としたユーザエクスペリエンスデザインに注力している。また海外との共同研究としては, イメージスキーマの考え方を活かした「もの」や「環境」のデザイン研究がある。ことばの中からメタファを抽出し, 表出されたメタファの基となっているイメージに基づいて, インタフェースをはじめ様々なものをデザインしようというものである。この研究には, メタファやイメージスキーマの文化間比較(国際比較)も含まれる。イメージスキーマ理論に基づいた色彩評価も, 海外との共同研究の大きな柱の1つである。またイメージの表象についてはメタファだけでなくオノマトペにも着目し, オノマトペを通じた「もの」や「環境」等の特性化も行っている。最近ではゼスチャアも含めた身体性(embodiment)にも着目し, 身体性とメタファとの関係を活かしたデザインの可能性についても検討している。研究の基本スタンスは人間の自然な認知・思考・行動に基づくもの・環境・仕組み等のデザインなので, 安全研究も研究の大きな柱の1つである。近年は, レジリエンスエンジニアリングの考えを用いて安全マネジメント(安全の仕組みデザイン)の方法について検討している。</p> |  |    |       |
| 1) Shenggang Lei, Takashi Toriizuka, Mattias Roetting : Driver Adaptive Task Allocation: A Field Driving Study, Le travail humain, Vol. 80, pp93-112, 2017  |  |    |       |
| 2) 景山一郎, 栗谷川幸代, 山内ゆかり, 石橋基範, 鳥居塚崇, 山田多恵子, 青木和夫, 時田学: 高度運転支援システムに向けたドライバモデル構築に関する研究, 自動車技術会論文集, Vol. 48, No. 2, 431-437, 2017  |  |    |       |
| 3) 鳥居塚崇, 武藤敬子, 金山正樹, 南川忠男, 楠神健: いま求められる現場力とは—しなやかで強い現場力を培うために—, 電気現場, Vol. 56, No. 664, pp36-60, 2017   |  |    |       |
| キーワード   | ヒューマンインタフェース・インタラクション    社会システム工学・安全システム    認知科学・感性情報学    生活科学 |    |       |

| 資格  | 教授 | 氏名       | 二井進 |
|---|----|----------|-----|
| <p>1) スペースデザイン作品の実施と検証<br/>「空間と場所」において、これまでの没場所性の作品設置の状況から場所の持つイメージ、アイデンティティを失うことのないデザイン作品の制作、発表(美術展覧会等への出品、発表)。</p> <p>2) 五感を通して感じる「皮膚感覚」。ここから造形するという行為、創造するという行為が生まれ、ものを作り、道具を作り、時代、地域、文化を通し様々な形で表現されてきた「かたち」。この「かたち」ということについて考察していく。</p> <p>3) 地域風土と文化芸術活動について<br/>場所の意識は地域の生活の基盤の一部として地域特性を失うこともなく受け継がれてきている。地域の文化芸術活動は時代とともに変化しつつ時の流れの中で安定・維持され、その時代の社会の中に組み込まれ、形作られてきたと考える。これは過去の形象の伝承ではなく、持続する形(型)の連続体と考えることができる。<br/>没場所性を感じる現代に於いて場所の持つ意味を考察することはこれからのデザインを考える上で必要とを感じる。</p> |    |          |     |
| 1) 二井進: 作品名「揺曳」会員発表作品, 第81回新制作展(新制作協会), 2017年9月20日～10月2日, 於: 国立新美術館, 第81回新制作展図録, p.100, p.210, 2017年9月20日発行   |    |          |     |
| 2) 二井進: 個展「806ー時を超えてー」, 2016年12月11日～12月17日, 於: 銀座ギャラリー青羅, 作品名「暗夜行」を含む24点の平面作品の発表  |    |          |     |
| 3) 二井進: 作品名「渦動」, 会員発表作品, 第80回記念新制作展(新制作協会), 2016年9月14日～9月26日, 於: 国立新美術館, 第80回記念新制作展図録, p.105, p.220, 2016年9月14日発行   |    |          |     |
| キーワード   | 造形 | スペースデザイン | 美術  |

| 資格   | 教授         | 氏名    | 三井和男                 |
|--|------------|-------|----------------------|
| <p>1) 自己組織化による構造形態の解析と創生をテーマとして研究を行っている。数理計画法を用いた合理的な構造物の形状最適化問題の解法は多く存在する。ラチスシュルの構造設計において、ひずみエネルギーの最小化と部材長の一様化を最適化問題として定式、構造物の形状最適化を行う研究などが例として挙げられる。しかし、数理計画法では設計問題の定式化に伴う設計変数の増加によって計算量が増加することにより解析が困難になる場合がある。そこで本研究では、設計変数が増加しても単純な計算方法により形状最適化問題を解析できる自己組織化アルゴリズムを提案した。</p> <p>2) 3Dスキャンを使って得た自然物の3Dデータに対して、RhinocerosとGrasshopperを使って構築したアルゴリズムを適用して、金属の薄板で構成したオブジェを作成するという一連の過程を提案する。この過程は、物質から情報へ、情報から物質へという新しいモノづくりの提案である。</p> <p>3) マーケティング戦略におけるペルソナデザインの自動化を新しいテーマとして研究を行っている。マーケティングにおけるペルソナは、「企業が提供する製品・サービスのもっとも重要で象徴的なユーザーモデル」の意味で使われる。年齢・性別などの定量的なデータだけではなく、その人の生い立ちから現在までの様子、人生のゴール、ライフスタイル、消費行動や情報収集行動などの定性的データを含めて、あたかも実在するかのような人物像をつくるものである。</p> |            |       |                      |
| 1) 島田英里子, 三井和男: GAEを用いた自己組織化の概念に基づくアルゴリズムの実装と構造形態創生への適用, 日本建築学会構造系論文集, 第82巻, 第741号, pp.1835-1844(2017.11)  |            |       |                      |
| 2) 木下哲人, 島田英里子, 三井和男: 金属オブジェの制作のためのアルゴリズム・デザイン手法と手工法, 環境芸術学会, 環境芸術第18巻, pp.68-73(2017.1)   |            |       |                      |
| 3) Eriko SHIMADA, Kazuo MITSUI : Implementation of Self-Organization Algorithm by GAE and Application to Uniform Member Length Problem, Proc. of the IASS Annual Symposium 2016(2016.9)  |            |       |                      |
| キーワード  | 数値シミュレーション | 数理情報学 | 最適化理論<br>アルゴリズム・デザイン |

| 資格  | 教授     | 氏名        | 森宮 祐次 |      |  |
|---|--------|-----------|-------|------|--|
| <p>1. モビリティサービス(MaaS)による新しい産業創出を「デザイン思考」用いて仮説化し、今後の社会へどう定着させるかの研究：モバイル・ルーム(R)プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目的：2030年を想定した少子高齢化，人口の都市部集中，地方の過疎化に対し，地方で旅行ビジネス事業を中心とした新しい産業を創出するための仕組みづくり</li> <li>・ ハード面：移動空間の居住性，快適性，安眠性，断熱性能，軽量化，EVとFCVとの共通シャーシ，リユースやメンテナンス性に対応した車体構成や構造，アイコンとなる車体デザインなど</li> <li>・ サービス面：SNSから嗜好を抽出しAIを活用した旅プランのリコmend，地方の特色にマッチした体験型アクティビティとの連携，「観光」の再定義化，時間と場所を自在化する多様性のあるシナリオなど</li> <li>・ 仮説を元にした提案を企業や自治体へ行い，連携による共同研究等へ発展させる</li> </ul> <p>2. 企業はデザイン(製品)を通して，社会をどう変えてきたかの事例研究</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ オリベッティ，ソニー，アップル，アマゾンの企業理念，経営思想，製品やサービスとの関係，製品デザイン，デザインとマネジメントの関係など</li> </ul> |        |           |       |      |  |
| 1) 森宮祐次, Olivetti Product Design 1963-1980: 電子書籍写真集, ASIN:B07BSNHVMJ, 総335ページ, 2018年3月29日   |        |           |       |      |  |
| 2) 特許: 照明装置 特許第6156861号(2017年6月16日)   |        |           |       |      |  |
| 3)  |        |           |       |      |  |
| キーワード   | デザイン思考 | プロダクトデザイン | 発想法   | 経営戦略 |  |

| 資格   | 准教授    | 氏名       | 内田 康之 |  |  |
|--|--------|----------|-------|--|--|
| <p>(1) 震災等の危険な現場では，被災した人々を安全に救出するために，迅速な状況把握が必要であり，危険をかえりみず救助隊員は現場に突入していく。これら隊員が常に携行し一歩先の安全確認に使用でき，彼らの生命の安全を確保しながらの安全な侵入経路の探索，危険物や被災者等の捜索を可能とする救助具が望まれている。そこで，我々はロボット技術を活用することで可能とするため，不整地上での機動性の高い情報収集ロボットを開発している。</p> <p>(2) 日本のかわいい文化は，訪日外国人の増加を引き起こし，大きな経済効果をもたらす日本の誇りである。これらのコンテンツは，観光客を惹きつけ地域活性化につなげることができると言われていいる。そしてコンテンツは，人と人之間，あるいは人とある対象の間で共有され，感情的な繋がりを生むことが実証されている。感情的な繋がりを創る事に成功している地域は地域活性化に成功している。そこで，日本が世界に誇れる魅力的なコンテンツを活かした地域振興を考えたコミュニケーションデザインについて研究している。</p> <p>(3) 災害時に，大きな問題となるのは食料・水・トイレの確保である。上下水道，電気等がストップした状況においては，使用できるトイレの数が不足し，被災者たちは排泄行為を控えるしかなく，結果的に，食料や水の摂取を控えることにつながり，脱水症状，栄養失調，エコノミー症候群などになり，震災関連死に至る方が多い。この問題を解決するために，避難所の支援物資の段ボール箱を活用し，簡単に作れるトイレについて，試作や社会実験を行っている。</p> |        |          |       |  |  |
| 1) 内田，和田，田中，竹島：“移動ロボットのための手信号を用いた操縦指令方式に関する研究”，日本設計工学会誌，Vol.52, No.3, pp.161-170, 2017.3.  |        |          |       |  |  |
| 2) 内田，藤下，竹島：“教育効果と作業効率の向上のための体感型ARマニュアルの提案”，日本デザイン学会研究論文集，Vol.62, No.6, pp.27-36, 2017.6.  |        |          |       |  |  |
| 3)   |        |          |       |  |  |
| キーワード  | ロボット工学 | インターフェイス | デザイン  |  |  |

| 資格   | 准教授 | 氏名    | 田中 遵      |
|--|-----|-------|-----------|
| <p>1. 子供の視点から見たデザイン(玩具, 遊具, 環具) : 大人が子どもに与えようとするモノと, 子どもが必要とするモノには相違がある。子供にとって必要なモノのデザイン(ものづくり)を子供の視点を通して行っている。</p> <p>2. 造形作品の創作手法および技術的研究 : 造形作品を考えるにあたり, 材料の特性や設置環境の特徴を生かし実験的作品を制作する。また, これらの作品は毎年, 新制作協会主催 新制作展 スペースデザイン部にて会員として出展発表を行っている。</p> <p>3. 視覚表示計画(サインデザイン)のありかた : 公共空間には, 様々な移動用表示サインや商業目的の広告サインが混在して見にくい(醜い)状況を呈している。景観, 標識, 広告, 看板, ポスター, グラフィックデザインをキーワードとして新しい提案に向けた研究を行っている。</p> <p>4. 環境デザインのありかた : 広場, ポケットパーク, 遊歩道, ストリートファニチャー, インテリアデザインなどを通して環境デザインの研究を行っている。</p> <p>5. 芸術文化の意味と役割 : 芸術的要素(祭り, パブリックアート, 野外彫刻, 等)を国内外において調査し, それらが果たしている役割(地域活性化, 空間のリサイクル, 等)の研究を行っている。</p> |     |       |           |
| 1) 内海慧吾, 田中遵, 他製作参加者11名: 実施ウィンドウディスプレイ作品「amazing」, 第8回B.M.ジャパン株式会社と田中遵研究室の産学連携プロジェクト, 於 B.M.ジャパン株式会社・東京青山フラッグシップショップ, 2018年2月7日  |     |       |           |
| 2) 田中遵: 作品名「Umikumaha 14」(会員出展), 新制作協会「第81回新制作展」, 於 国立新美術館, 図録p.103、2017年9月20日   |     |       |           |
| 3) 玉田彩音, 関森渉, 田中遵, 他製作参加者14名: 実施ウィンドウディスプレイ作品「Skip Skip Skip」, 第7回B.M.ジャパン株式会社と田中遵研究室の産学連携プロジェクト, 於 B.M.ジャパン株式会社・東京青山フラッグシップショップ, 2017年7月20日   |     |       |           |
| キーワード  | 芸術  | デザイン論 | 工業デザイン 遊び |

| 資格  | 准教授  | 氏名  | 中澤 公伯 |
|---|------|-----|-------|
| <p>1. 地域計画分野</p> <p>イタリア・旧市街における職人企業(Artigiani)を事例に, その立地について, イノベーション産業の創生, そのための労働者の情報交換(Knowledge Exchange)の視点から研究を行っている。</p> <p>バブル経済崩壊以降長らく続く経済停滞を打開すべく, 21世紀型のイノベーション型産業の創生と集積を目指して, 全国の自治体は競って施策を講じている。そのような中, 日本と同じ先進国として産業空洞化問題を抱える中で, 「第三のイタリア」と呼ばれる地域が, 21世紀型イノベーション産業のさきがけの地として注目されている。そのなかでも, 日本の工業地域と異なり中心街にも立地する職人企業(Artigiani)を主な対象として着目し, その立地に関する数理的な考察を行っている。</p> <p>2. 建築情報システム分野</p> <p>既に豊富に用意されている地理空間情報を扱うGIS,そして近年建設業界で導入が進みつつあるBIM, これら両方を駆使して都市環境デザイン技術を開発研究している。</p> <p>都心商業地域で進むマンション開発を想定して, BIMとGISの活用による持続的な日照が望める適地選定やデザイン検討手法の検討を行っている。</p> |      |     |       |
| 1) 遠藤陽希, 中澤公伯: BIMを利用した都市環境デザイン手法に関する研究 - 日本橋問屋街地区の広域日照評価 - 第40回情報システム・利用・技術シンポジウム, 第40回建築情報システム利用技術シンポジウム論文集, CD-ROM, 2017.12  |      |     |       |
| 2) Kiminori Nakazawa, Valentina Orioli, Kazuo Mitsui and Takeshi Sakamoto: A Study on Environments of Industria and Artigianato for Innovative Industries by allocation analyzing of the Knowledge Exchanging Place, Proceedings of XXXVIII Conferenza scientifica annuale AISRe, <a href="https://www.aisre.it/images/aisre/596b62f23b7739.21145893/20170716_Nakazawa_Orioli.pdf">https://www.aisre.it/images/aisre/596b62f23b7739.21145893/20170716_Nakazawa_Orioli.pdf</a> , 2017.9  |      |     |       |
| 3) 中澤公伯, バレンティーナ オリオリ: イタリア北東部沿岸域における工業用地の立地に関する研究, 沿岸域学会誌, 29/3, pp57-61, 2016.12  |      |     |       |
| キーワード   | 地域計画 | BIM | GIS   |

| 資格  | 准教授  | 氏名    | 西 恭 一 |             |
|---|------|-------|-------|-------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>日本における歯科矯正では、患者が審美性、すなわち、治療期間中の見た目にこだわる傾向があり、安価かつ高性能なステンレス製ブラケットよりも、高価かつ壊れやすいセラミック製を選択するケースが増えている。特に後者はサイズが大きいことが治療においても患者にとってもネックとなっているため、小型セラミック製ブラケットの開発を行っている。</li> <li>歯科矯正治療は、歯列に貼り付けたブラケットにアーチワイヤーを通してはめ込み、アーチワイヤーからの反力や反モーメントを矯正力として働かせている。したがってアーチワイヤーの形状が重要であるが、現在、歯科医師の経験により決定されているため、意図した方向とは逆の方向に歯が移動してしまうケースもある。そこで、上下顎を含む歯列CADモデルを構築し、FEAにより、アーチワイヤーからの矯正力を求める手法について研究している。</li> <li>クレール射撃における銃、装弾、射手の挙動を調べ、射撃場を含むCGで再現した3Dシミュレータの開発を行っているが、これをOculusおよび加速度センサーを含むトリガーに対応させ、視覚的によりリアルなVRシステムの構築を行っている。</li> <li>東京オリンピックをひかえ、今後益々外国人観光客が増えることが見込まれ、駅改札口における渋滞緩和を目的としたマルチエージェントによる通行流シミュレータを構築し、動線の最適化の提案を行っている。</li> </ul> |      |       |       |             |
| 1) 野島悠, 西恭一, 高橋進, 中嶋昭, 小作一仁, 清水典佳, FEAによる歯科矯正用セラミック製ブラケットのコンパクト化, 第22回計算工学講演会, 2017年5月31日   |      |       |       |             |
| 2) A.Tabeta, Y.Nishi, S.Takahashi, A.Nakajima, K.Kosaku and N.Shimizu, Study on Optimal Design of Closing Arch Wire in Orthodontic by using Finite Element Analysis, 6th Pacific-Asia Conference on Mechanical Engineering, Aug.29, 2017  |      |       |       |             |
| 3) 多部田敦己, 西恭一, 高橋進, 中嶋昭, 小作一仁, 清水典佳, 有限要素法解析を利用したClosing arch wireによる矯正力の解析手法, 日本設計工学会2017年度秋季大会, 2017年10月7日  |      |       |       |             |
| キーワード   | 計算力学 | 歯科矯正学 | 医用画像  | スポーツ科学コーチング |

| 資格  | 専任講師     | 氏名     | 遠 田 敦  |  |
|---|----------|--------|--------|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>個別配信型避難安全システムの開発<br/>超高層建築物からの避難では、全館一斉避難よりも罹災リスクの高いフロアの在館者から順次避難させる方が安全かつ迅速に避難完了できる可能性が高い。これを実現するための災害情報伝達システムなどを構築することを目的とした研究を行う。【平成28～30年度: 基盤研究C(代表)】</li> <li>没入型仮想環境(IVE)を用いた距離感および体積感トレーニングツールの開発<br/>HMDに代表されるIVEシステムを用いて、人間の知覚特性の解明や種々のトレーニングツールに活用することを目的とした研究である。平成29年度はスケール感に関するトレーニングを目的としたツールの開発および実験を実施した。【平成28～31年度: 若手B(協力者)】</li> <li>自立共生的な住空間の計画に関する実践的研究<br/>省エネルギーやZEHなどの環境的な側面だけでなく、地域コミュニティとの関わり方、環境システムとしての里山、都市と遠郊外との関わりをも含むより包括的なライフスタイルとそれを支持するための住空間の在り方について、実際に住宅の設計を伴いながら検討をおこなう。</li> <li>オープンソースハードウェアを活用した住環境モニタリングシステムの研究開発<br/>Arduinoに代表されるオープンソースハードウェアを活用し、住空間内外の温熱環境や人間の動作・行動をモニタリングするためのワイヤレスセンサーネットワークシステムを構築するとともに、得られたデータから生活習慣の特徴抽出や予測を実現する手法について研究を行う。</li> </ul> |          |        |        |  |
| 1) 高橋京平, 遠田敦, 大宮喜文: 初期火災時における視覚的異変感知に関する研究, 日本建築学会計画系論文集, 日本建築学会(査読中)   |          |        |        |  |
| 2) 馬淵大宇, 吉岡陽介, 藤井皓介, 遠田敦, 佐野友紀: 没入型仮想環境における距離感の精度に影響を与える要因の検証, 日本建築学会, 日本建築学会技術報告集, 53, p.223-226, 2017-02  |          |        |        |  |
| 3)  |          |        |        |  |
| キーワード   | 建築情報システム | 建築人間工学 | 火災安全工学 |  |

| 資格   | 助教 | 氏名    | 木下哲人      |      |
|--|----|-------|-----------|------|
| <p>1) パブリックスペースと造形活動における研究<br/>           駅前の再開発に伴う、モニュメントのデザインの検討を行っている。また、店舗空間におけるモニュメントの可能性やデザインを探っている。実際にモニュメントを設置している。</p> <p>2) 様々な素材や鉄の熱間加工による鍛造加工方法の開発と技術の習得及びデザイン<br/>           現在は廃木材の断片をGFRP(ガラス繊維強化プラスチック)で強化することで、木材が持つ弱点を補うハイブリット素材の開発とそのデザインを試みている。</p> <p>3) 什器のデザインと機能性と制作について<br/>           実存する宿泊施設の問題を解決する什器や空間構成の考察をし、実作している。</p> <p>4) ワークショップにおける地域住民参加型表現活動の研究<br/>           千葉市(官)をクライアントに見立て、廃材を提供していただいた企業(産)と連携し、デザインを学ぶ学生(学)が「もの」や「こと」づくりに対し、ミーティングを重ね、プロダクトの制作を行った。また様々な計画を企て、地域住民と実践的なデザイン活動を行った。</p> <p>5) 3Dスキャナーを使って得た自然物の3Dデータに対して、RhinocerosとGrasshopperを使って構築したアルゴリズムを適用し、実際に野外設置にも耐えられるモニュメントの制作を伝統技法等を用いながら実際に作成するという一連の過程の研究活動を行っている。</p> |    |       |           |      |
| 1) 木下哲人, 島田英里子, 三井和男, 金属オブジェの制作のためのアルゴリズム・デザイン手法と手工法, 環境芸術学会, 18, pp.68-73, 2017/05/02   |    |       |           |      |
| 2) 鈴木友理, 田村晃女, 木下哲人, 企業と連携したデザイン活動の実践について, 日本デザイン学会第4支部, 平成29年度研究発表, 2018/01/20  |    |       |           |      |
| 3) 木下哲人, 作品名「CATTLE OF IRON」, 店舗内作品常設, 2016/11/05  |    |       |           |      |
| キーワード  | 芸術 | デザイン論 | 工芸・意匠・服飾史 | 生涯学習 |

| 資格  | 助教  | 氏名 | 中川一人 |  |
|---|-----|----|------|--|
| <p>設計工学において、形状が与える振動特性へ影響について、インドネシアの金属打楽器であるガムラン音板を対象とし、形状の異なる音盤を作製し振動特性に与える影響について調べた。また、作製した音盤での実験結果とシミュレーション結果の比較を行い、振動特性のシミュレーションの妥当性について評価した。これらの結果を元に必要とする音から形状を作成することができるか検討を行っている。</p> <p>医学部および芸術学部との共同研究として気管支喘息と慢性閉塞性肺疾患の吸入療法に培目し、今日多くの患者が使用しているpMDI(加圧式定量噴霧式吸入器)を対象とした吸入デバイス家研究・開発を行っている。吸入療法は使用方法が誤っている、症状の軽減にともない自己判断により治療途中で使用を中断する、第三者が使用状況を判断できないなどがあり、十分な医療効果を得ることできていないとの指摘がある。そこで吸入デバイスに微差圧センサを設置して患者の吸入状況をモニタリングし、正しい吸入方法の指導および吸入治療への応用について検討した。</p> |     |    |      |  |
| 1) 中川一人, 田中良, 近代建築における銅板屋根の維持保全 ―採取した既存銅板の劣化調査―, 第50回(平成29年度)日本大学生産工学部学術講演会, 2017年12月2日   |     |    |      |  |
| 2) 中川一人, 肥田不二男, UD視点による呼吸器プロダクトの可能性について-3, 日本デザイン学会 第64回春季研究発表大会, 2017年7月1日   |     |    |      |  |
| 3) 中川一人, デジタルファブリケーションを用いたプラスチック製品のプロトタイプモデル作成に関する研究, 産学連携プロジェクト, 甲陵樹脂工業株式会社, 2017年10月  |     |    |      |  |
| キーワード   | 材料学 | 図学 | 設計工学 |  |